報 告

CT colonographyでの盲腸の変形像を契機に全大腸内視鏡検査にて診断されたアメーバ性大腸炎の一例

吉富健悟† 柳井秀雄[1)] 原野 恵[2)] 千原大典[2)]
坂口栄樹[2)] 戒能聖治[2)] 村上知之[3)] 長岡 榮[4)]

IRYO Vol. 77 No. 2 (134－137) 2023

要旨 50歳代男性，無症候性アメーバ性大腸炎の一症例を経験した．本症例では，便潜血陽性のために施行されたCT colonography（CTC）で盲腸の変形を指摘されたことが診断の契機となった．全大腸内視鏡検査で盲腸に潰瘍病変を認め生検でアメーバが確認され，メトロニダゾール内服で治癒した．本症例の経験から，CTCや通常のCT検査において回盲部に異常所見を認めたときは，大腸癌や大腸結核・炎症性腸疾患など以外にも，アメーバ性大腸炎を含めた感染性腸炎の存在を念頭に置くことが望ましいと考えられた．

キーワード アメーバ性大腸炎，CT colonography

はじめに

アメーバ性大腸炎は，下痢・血便・腹痛などの症状を契機に診断されることの多い疾患であり，CTcolonography（CTC）所見が診断の契機となった報告は少ない．われわれは，腹部症状なく健診の便潜血検査陽性のために受けたCTCにて回盲部病変を指摘されたことが診断契機となり全大腸内視鏡検査で診断されたアメーバ性大腸炎のまれな１例を経験したため，報告する．

症 例

症例は50歳代男性．主訴は大腸精査希望（便潜血検査陽性・腹部症状なし）．平成2X年Y月に，健診便潜血検査陽性のため，本人の希望で前医でCT colonography（CTC）を受けた．CTCでは，盲腸の変形がみられ，盲腸壁の肥厚や腸間膜リンパ節の腫大もともなっていた．炎症性腸疾患や大腸癌やリンパ腫を疑われ，国立病院機構関門医療センター（当院）消化器内科紹介となった．２年前の同医でのCTCでは特記すべき異常を指摘されていない．既往歴・内服歴，なし．飲酒は付き合い程度，喫煙ななし．独身者・婚姻歴あり・子供あり，同性愛なし．

産業医科大学 第３内科，国立病院機構関門医療センター １）臨床研究部，２）消化器内科 ３）㈱キューリン／㈱キューリンパーセル 病理診断部門（前，関門医療センター病理），４）長岡内科画像診断クリニック †医師
著者連絡先：柳井秀雄 一般財団法人防府消化器病センター 研究所 〒747-0801 山口県防府市駅南町14-33
e-mail：hyanai@hofu-icho.or.jp
(2022年８月18日受付，2023年12月２日受理)
Amebic Colitis Diagnosed by Total Colonoscopy, which Initially Detected as Deformity of Cecal Wall by CT Colonography
Kengo Yoshitomi, Hideo Yanai[1)], Megumi Harano[2)], Daisuke Chihara[2)], Eiki Sakaguchi[2)], Seiji Kaino[2)], Tomoyuki Murakami[3)] and Sakae Nagaoka[4)]. University of Occupational and Environmental Health Japan, １）Department of Clinical Research, ２）Department of Gastroenterology & Hepatology, ３）NHO Kanmon Medical Center ; KYURIN / KYURIN PACELL Corporation and ４）Nagaoka Medical Clinic.
(Received Aug. 18, 2022, Accepted Dec. 2, 2023)
Key Words：Amebic colitis, CT colonography